

科目名	慢性看護学Ⅲ演習 Seminar on Chronic care Nursing Ⅲ
授業形態	講義
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	秋AB学期 木曜5・6時限
実施場所	共同利用棟B 204
単位数	2単位
担当教員名	日高紀久江 Hidaka Kikue 柴山 大賀 Shibayama Taiga 阿部 吉樹 Abe Yoshiki
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	事前に確認し訪室すること
授業の到達目標 (学習成果)	ロールプレイや実技演習を通して慢性病の様々な変化する時期に対応した支援技術を習得する。
他の授業科目との関連	慢性看護学特論Ⅲ
履修条件	慢性看護学特論Ⅲを受講していること。
授業概要	慢性看護学特論Ⅲで学習した支援技術をロールプレイや実技演習を通して習得する。
キーワード	慢性病(chronic disease)、ロールプレイ(role playing)、看護支援(nursing support)
授業計画	1・2(/)慢性病の経過に対応する支援技術の実際(1)発症予防のための健康教育(日高・柴山・阿部) 3・4(/)慢性病の経過に対応する支援技術の実際(2)診断に伴う専門的看護支援(日高・柴山・阿部) 5・6(/)慢性病の経過に対応する支援技術の実際(3)治療に伴う専門的看護支援(日高・柴山・阿部) 7・8(/)慢性病の経過に対応する支援技術の実際(4)自己管理支援(日高・柴山・阿部) 9・10(/)慢性病の経過に対応する支援技術の実際(5)リハビリテーション(日高・柴山・阿部) 11・12(/)慢性病の経過に対応する支援技術の実際(6)ターミナルケア(日高・柴山・阿部) 13・14(/)慢性病の経過に対応する支援技術の実際(7)倫理調整(アドボカシーなど)(日高・柴山・阿部) 15・16(/)慢性病の経過に対応する支援技術の実際(8)倫理調整(自己決定支援など)(日高・柴山・阿部) 17・18(/)慢性病の経過に対応する支援技術の実際(9)症状マネジメント(日高・柴山・阿部) 19・20(/)慢性病の経過に対応する支援技術の実際(10)患者教育(日高・柴山・阿部)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	授業開始までに、各自が授業内容にあった事例をもとに患者役を演じる準備をしておくこと。 実習までに支援技術が確実に身に着くように、授業後は、主観的・客観的な評価に基づいて実践上の自己の課題を明確にし、それを克服するための努力を惜しまないこと。
成績評価方法	評価方法と評価配分 発表と討論の内容(50%)、レポート(50%) 評価基準 1 慢性病の経過に対応した支援技術の根拠について説明できる。 2 慢性病の経過に対応した支援技術の手順について説明できる。 3 慢性病の経過に対応した支援技術を実演できる。 4 科学的、論理的な視点からの討論により、専門性の高い看護実践をおこなうための自己の課題とその解決方法を提示できる。 上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A+ 上記1～4をを自身で達成できる。 A 上記1～4ををほぼ自身で達成できる。 B 上記1～4をを教員の指導を受けながら達成できる。 C 上記1～4をを教員の指導を受けながら概ね達成できる。 D 上記1～4をを教員の指導のもとでも達成できない。
教材・参考文献・配布資料等	特に指定しないが、適宜参考資料を提示する。
その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)	わからないことは、その場で質問し解決すること。